

# TechHUB overview

あなたの近所のでっくはぶ

# TechHUB Ideology

教えたい奴が講師になり教えたい事を教える。  
ただし、学生を喜ばせる必要がある。

学生が、自分の受けたい授業を選ぶ。  
勧誘etcは、選択権が学生にあればやって良い。

あとは講師に任せる。

# TechHUB Ideology

TechHUBでは、その存在意義として、

- ・ 教えたい社会人への場の提供をする事
- ・ そんな社会人に教わる事で、学生さんが成長する事

を目的として活動をしています。

社会人に、「教えたい」という欲求を叶える機会を提供しつつ、  
学生さんに、学生のうちから、より実践的な技術に触れられる場を提供する、というものです。

すなわち、

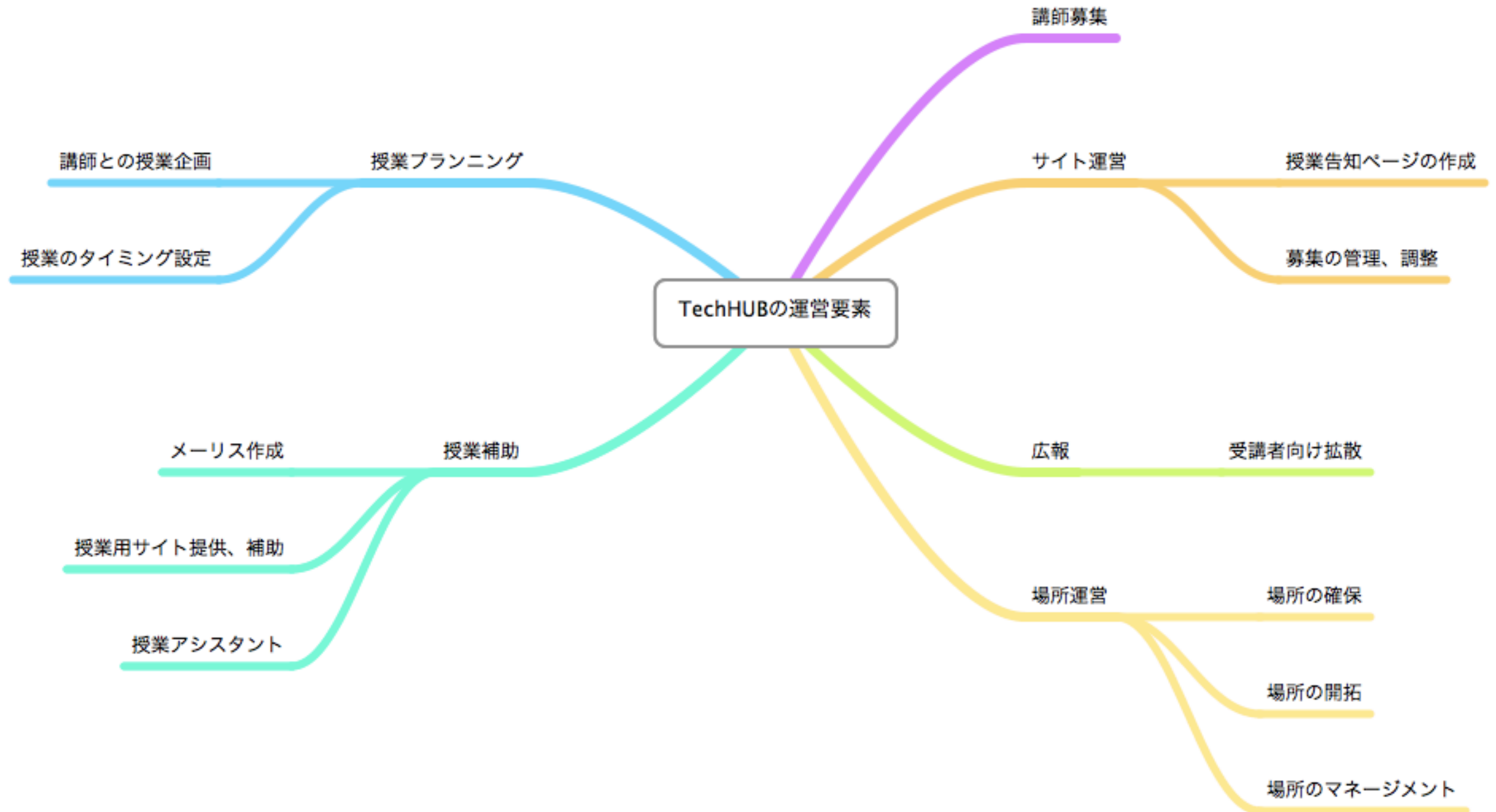
**「学生のうちからできるような奴が一人でも多く、育てばいい。」**

それを、

**「教えたがりの暇で能力のある連中がやればいい。」**という理念で動いています。

今の学生に、今の社会人の「今マジコレでメシを喰って生きてます」を伝える事で、  
学生のその後と、彼らが手伝ってくれる「仕事」がより良くなる事を望みます。

# 運営全体像(俯瞰図)



# 授業プランニング

- 講師の人に「どんな授業がしたいか」伺い、提案してもらいます。
- 授業のタイミングを調整します。  
講師の都合が最優先です。

# 授業補助

- 学生-講師間のメーリスの用意と登録を手伝います。講義の通達に使ってもらいます。
- 学生向けサイトの手配を手伝います。
- 実際の授業に、スタッフ(とか他の講師とか)が補助として参加します。

# 講師募集

- 運営から、運営の身内、知り合いにいろいろお話をして、講師をやりたい人を集めてきます。コアな能力。

# サイト運営

- Webサイトを運営。
- 授業の告知ページの制作、テストを行います。
- 募集ページの制作、テスト、募集開始~終了、中止などの制御を行います。



# 広報

- Twitter、メーリス等に情報を流します。

# 場所運営

- 場所の確保を行います。
- 場所の開拓を行います。
- 授業への割当、場所のマネージメントを行います。

# おまけ、 寄稿文書

日本情報処理学会に寄稿した文書です。(前半)

TechHUB 学生と開発者と社会の間の架け橋と、よりよい教育を目指して

・新卒、自信を持って採れますか？

TechHUB(テックハブ)は、教えたがりの社会人の技術者、専門職の人間が、学生へと授業を行う、少し変わった勉強会の場です。

現役のiPhoneアプリ開発者、Flashデベロッパ、Androidアプリの開発者など、現在第一線の技術を持っている人々が、講師として授業を行っています。

授業は講師発のスケジュールに則り、学生さんへと公募を行います。

応募が多い場合は抽選になってしまいますが、学生さんへの授業料は無料です。

これまでにiPhoneアプリ開発に関する授業を行い、殺到する応募、意欲的な学生さんの姿勢、講師の凹っぷりなど、驚くほど多くの出来事や発展に恵まれてきました。

さて、表題の件、皆さんは、どのようにお考えでしょうか。

TechHUBでは、その存在意義として、学生さんの成長を目的として活動をしています。

そのうち特に端的な目的が、学生さんに、学生のうちから、より実践的な技術に触れられる場を提供する、というものです。

新卒で卒業した若者を、0から今の自分の会社の求める人材までステップアップさせられるのか。まず土台、できればやりたくないというのが本音でしょう。

教えずに出来る人間が欲しい。出来れば即戦力が欲しい。

TechHUBは、そういった「企業から最も求められる人材」というニーズが、実際に新卒の学生さんがそのまま満たしていることがほぼあり得ない、という事実を、ほんの少しだけ直視しています。

すなわち、「学生のうちからできるような奴を一人でも多く、育てればいい。それを、教えたがりの連中がやればいい」と。

同じような考え方の試みとして、企業のインターンがあります。

でも、大学1年～4年、院生までを相手取った、現役技術者による実践的な教育の場、というのは、他にないでしょう。

# おまけ、 寄稿文書

日本情報処理学会に寄稿した文書です。(後半)

そんなTechHUBの残り半分は、講師でできています。

教え方を調べるという行為は、そのまま、自分の理解を、自分が人に伝えられるようになるまで深めてくれる行為でした。

今まで表層しか掘っていなかった技術のバックボーンを俯瞰する機会に恵まれたり、学生からの自然な質問に感化されて、新しい概念を思いついたり。

授業で取り上げるからには仕方ない、というこの掘り方は、会を続ける上で非常に大きなモチベーションになるのです。

このように教える側にも、役割の性質上、大変な収穫があります。

文面のみを追うと、なんだか口マン溢れるベストマッチングのような見え方をしていますが、もちろん利権も渦巻いております。

元は技術について無学な学生さんとして、出来るようになってくれば、魅力的な人材に見えてきます。

そういった人材を、間近で、教えるという行為によってより深く理解出来る、というのが、講師の役得です。

面接するよりよっぽど特性や、伸びしろが判ります。

TechHUBでは、特に講師から学生への勧誘を禁じていません。但し、最後は学生さんが決める事、という前提です。

最後に少し、道義的な話になりますが、

誰かに何かを教えてもらわなかった人間は、誰かに何かを教える事について消極的になりがちです。

殊に今のITの世界において、筆者も独学で学びました。会社においては、見て盗め的な教育(?)もありました。

独学で学ぶ事で世界の最先端に近い位置に、自助努力のみで追いついていられた最後の世代ではないか、と考えています。

次の人たちは、0地点からスタートして、今の私たちの100歩に、彼らの100歩で追いつけるでしょうか。

進歩は人の能力に関係なく進んで行きます。このあたりで、自発的に次の世代を教える人間が出てきてもいいでしょう。

来期、2011年の3月からは、iPhone.Android,Flashなどの授業が開講予定です。

社会人向けにも門戸を開きますので、ご期待ください。

東京のどこかでこのような試みを行っている連中がいる、という事を、どこかで気にかけていただけると冥利に尽きます。